

区分	提言内容
市民環境	地産地消の振興等による安全な食料の安定供給の確保やAI-2づくりによる河川等の浄化、生ゴミ用ボカシ等による自然の浄化、環境美化により、低エネルギー、ゆとり社会へ転換し、低炭素で持続可能な緑あふれる、自然の恵み豊かなまちづくりを目指す。
	リサイクルを一層、進展させてほしい。市民にリサイクル活動は浸透していないため、さらに意識啓発をしてほしい。市としても環境への積極的な取り組みを進めることが必要であり、太陽光発電システムを公共施設に導入して環境負荷低減のために使用済み天ぷらオイルの収集ルートを確立と、燃料オイルに再生する事業への援助をして欲しい。また、バイオ燃料等も含め公用車への利用を積極的に進めてほしい。
	地球温暖化はわが国だけでなく、世界中の問題となっている。このような時代に、私たちが何か協力できることはないだろうかと考え、思いついたのが、古布の集団回収だった。現在新居浜市で、家庭ごみとして出されている古布は、すべて燃えるごみとして、焼却され、処分されているが、最近の古布業界の話によれば、およそ90%を有効利用されている。焼却処分されるのは、残り10%だが、これも燃料として活用されているようだ。集団回収で、集めた資源ごみは、市の処分場を通らず、直接業者へ売り渡すことになるため、焼却されることなく、それぞれに活用されるごみとなる。さらにこれに加えて、ある市には奨励金という制度もあるようだ。一度には無理だと思うが、時間をかけ、地域から校区、そして新居浜市全体へ活動の輪を広げていき、新居浜市のごみの中から、衣類は見られないようにしていきたい。
	地域の人々が互いに協力し、交流を深めながら、環境やまちづくりにより行事などを活発に行い、温かい泉川にしたここに生まれてよかったと思える地域にしたい。そのためには「ごみがない」というのが第一である。
	誇れるまちとは、自分の生まれ育ったまちを愛すること、すなわち魅力あるまちづくりだと思う。そのためには、一人ひとりが協力して、ごみを落とさない、ごみを拾う、あいさつをすること。
	あいさつ声が行き交っているまちにしたい。奉仕作業等のみんなでのしむものや伝統的な行事への参加することによって、何かが変わってくる。
	環境美化など、地域の方々交流できるイベントをつくり、みんな仲が良い泉川にしたい。
	「一般家庭の生ゴミモデル地区事業」の実施を提案したい。地区内に「生ゴミ推進委員会」等を発足させ、生ゴミの保管方法や収集方法、また生ゴミ減量の必要性を詳しく説明し、各家庭の理解を求め、生ゴミから堆肥等を作り、公共機関や家庭等に配布する。
	最近、不審者が増加している。安心して生活・外出できる環境整備が必要。近所との信頼関係を築き、地域との交流を深めることが地域の安全を守り非行防止につながる。
	自主防災組織の実質的な活動を活性化させる意味からも、自治会館を非難所と位置づけ、隣近所の災害弱者の方が安心して避難できる非難所ネットワークを組み上げる。
	現在、自治会館の修繕等も補助金を受けて行っているが、ただ単なる施設の修繕だけではなく、そのような折には、付加価値として災害対応型施設への対応も盛り込み、自治会館のレベルアップを図ってほしい。自治会をはじめコミュニティの力が益々大きくなるような街づくりを新しい計画に盛りこんでほしい。森林や田畑が放置され荒廃している。このようなところは市が借り上げ市民に安く貸す制度をつくって欲しい。